2026 年度春学期 授業評価アンケート総括

サイバー大学 FD 専門部会

概要

専門科目、教養科目、外国語科目の 3 区分において、授業評価アンケート（原則 5 点満点）の分析に基づき、以下の観点から報告書としてまとめた。

2026 年度春学期の全体傾向として、いずれの区分においても総合的な学生の評価は安定しており、目標値を上回る高い水準を維持した。また、一部の科目で確認された課題についても、次学期に向けた具体的な改修や個別支援に既に着手している。本報告書では、以下の構成で詳細を報告する。

① 全体傾向

② 新規／改修科目・その他実施した施策の評価

③ 分析結果に基づく今後のアクションプラン

1. 専門科目における分析結果

① 全体傾向

専門科目全体（講義・演習）における「満足度」は 4.11（2025 年度春学期：4.11）、「推奨意向」は 4.09（2025 年度春学期：4.09）となり、前年同期とほぼ同水準を維持した。コンテンツの「デザイン・見やすさ」を不満として挙げた割合も 6.5%（2025 年度春学期：7.0%）と大きな変化はなく、講義・演習ともに総合的な学生の評価は安定している。

一方、2026 年度春学期の個別科目では、コンテンツの「デザイン・見やすさ」に対する不満を選択した割合が 10%以上となった科目が講義で 5 科目、演習で 3 科目確認されており、全体としては安定しているものの、一部の科目では教材の視認性や提示方法について個別の改善課題が残っている。

卒業研究科目の「満足度」は 4.43（2025 年度春学期：4.31）、「推奨意向」は 4.38（2025 年度春学期：4.31）となり、いずれも前年同期を上回った。また、研究への取り組みの充実度を表す「研究活動」は 4.45（2025 年度春学期：4.38）へ上昇した。「教員の関与が議論の質向上につながった」とする評価も 4.39（2025 年度春学期：4.28）、指導の良い点として「課題へのフィードバック」を挙げた割合も 62.2%（2025 年度春学期：54.9%）となっており、卒業研究における研究活動や個別指導は引き続き高い評価を得ている。

② 新規／改修科目・その他実施した施策の評価等

2026 年度春学期に新規開講した 2 科目では、以下の結果が確認された。

- **デジタルマーケティング論（講義）**：満足度は 4.18、コンテンツのわかりやすさは 4.16 と、全体として良好な評価であった。一方、デザイン・見やすさへの不満は 10%となった。自由記述では、情報量や専門用語、計算式が多く理解に時間を要することや、資料がテキスト中心で要点をつかみにくいことが指摘され、文字量を抑えて図表や口頭説明を充実さ

せることを求める意見が見られた。また、一部では音声の聞き取りにくさを指摘する意見もあった。実践課題については難しさを指摘する意見がある一方、実際に考えて作成することで学びが深まったとの評価もあり、課題の教育的効果を維持しつつ、教材の情報提示や説明方法を改善することが課題である。

- **生成 AI によるビジネススキル演習（演習）**：満足度は 3.96、知識・技能の習得実感は 4.47、コンテンツのわかりやすさは 3.05 となった。自由記述において、ビジネス課題を題材に実務に活かせる思考法やスキルが習得できたといった趣旨の意見が多数寄せられており、授業内容の評価は高いと考えられる。一方、教材等の構成に関して、デザイン・見やすさ（25%）、教員の話し方および口頭説明（各 20%）、補足資料・動画（18%）について改善を求める意見が寄せられた。自由記述においても、前半の資料と音声の一部不一致などが指摘されており、わかりやすさの評価に影響したと考えられる。一方、指導の良い点として Q&A を挙げた割合は 33%と高く、質問対応などの手厚い個別支援体制については十分な評価を得ている。

2026 年度春学期に改修した 4 科目では、概ね良好な改善結果が確認された。

- **UNIX 入門（演習）**：2025 年度春学期から 2026 年度春学期にかけて、満足度が 3.72 から 4.09、コンテンツのわかりやすさが 3.77 から 4.04、「課題のフィードバックは十分か」が 3.84 から 4.07 へ上昇した。また、デザイン・見やすさへの不満も 14%から 8%へ低下した。改修前の春学期同士（2024 年度春学期→2025 年度春学期）では満足度が 3.94 から 3.72 へ低下していたことも踏まえると、2026 年度春学期に学生の評価が大きく改善している。
- **AI 技術応用（講義）**：2025 年度春学期から 2026 年度春学期にかけて、コンテンツのわかりやすさが 4.11 から 4.27、「課題のフィードバックは十分か」が 4.05 から 4.22 へ上昇した。特に、指導の良い点として課題へのフィードバックを挙げた割合は 13%から 27%へ増加した。改修前の秋学期同士（2024 年度秋学期→2025 年度秋学期）では「課題のフィードバックは十分か」がほぼ横ばいであったことから、2026 年度春学期にフィードバック面で明確な改善が見られた。
- **ビジネス法務入門（講義）**：2025 年度春学期から 2026 年度春学期にかけて、満足度が 3.97 から 4.11、コンテンツのわかりやすさが 3.90 から 4.05 へ上昇した。デザイン・見やすさへの不満も 12%から 5%へ低下しており、教材の見やすさを含めて改善が確認された。
- **マーケティング入門（講義）**：満足度は 4.11（2025 年度春学期：4.15）と概ね横ばいであった。「課題のフィードバックは十分か」は 3.95（2025 年度春学期：4.07）と若干の低下が見られた。この指標は改修前の春学期同士（2024 年度：4.09→2025 年度：4.07）、秋学期同士（2024 年度：4.08→2025 年度：4.09）ではほぼ横ばいであったため、現時点で明確な課題とは判断せず、次学期以降の推移を注視する。

③ 分析結果に基づく今後のアクションプラン

- **講義科目**：全体の評価は安定しているため、一律の改善施策ではなく、デザイン・見やすさへの不満が高い科目を中心に個別対応を進める。継続的にデザイン・見やすさへの不満が確認されていた「デジタル技術と情報化社会」「経営戦略論」「企業経営入門」については、2026 年度秋学期に全面的な改修を実施しており、その効果を今後の授業評価アンケートで検証する。

- **演習科目**：全体として、指導の良い点として課題へのフィードバックを挙げた割合は2025 年度春学期と 2026 年度春学期でほぼ同水準であった。一方、「生成 AI によるビジネススキル演習」は、教材の構成（デザイン、口頭説明、補足資料等）に関して改善を求める意見が寄せられた。まずは指摘のあった資料と音声の一部不一致を速やかに是正し、直感的に理解しやすい教材へのアップデートを継続的に進める。
- **新規・改修科目**：新規開講の「デジタルマーケティング論」については全体評価が良好であるため、内容そのものを大きく変更するのではなく、必要に応じて情報量の整理、テキスト中心の資料構成、音声品質など、理解を妨げる可能性が指摘された要素を中心に改善を検討する。改修科目のうち「UNIX 入門」「AI 技術応用」「ビジネス法務入門」は改善が確認されていることから、現状の授業設計を基本的に維持しつつ、次学期以降も評価の推移を確認する。「マーケティング入門」については、課題フィードバックへの評価に若干の低下が見られたため、現時点で大きな変更は行わず、受講者の意見も確認しながら次学期以降の推移を注視する。新規開講科目についても、2026 年度春学期の結果を基準として次学期以降の推移を確認する。
- **卒業研究科目**：2025 年度春学期から 2026 年度春学期にかけて、研究活動、満足度、教員による議論支援、課題フィードバックはいずれも良好な推移を示しており、現在の個別指導を引き続き維持・強化する。

2. 教養科目における分析結果

① 全体傾向

全体満足度は講義（4.14）、演習（4.13）ともに目標（4.00）を上回る高水準を維持している。特に「文献調査と整理術」では、難易度（科目平均 3.62）が全体平均（3.24）よりも高いにもかかわらず、手厚いフィードバック（科目平均 4.43、全体平均 4.13）を通じて学習意欲を支えることで、高い満足度（科目平均 4.38、全体平均 4.13）とディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）に定める能力の修得実感（批判的思考力の割合 71.43%、全体割合 45.77%等）を両立できることが確認された。

② 新規／改修科目・その他実施した施策の評価等

【再収録を行った科目の評価】

再収録が反映された 4 科目は、全体として改善または現状維持が確認された。「心理学入門」の満足度の科目平均は 4.27（2025 年度秋学期：4.25）と安定した高評価を維持している。「化学入門」は 4.15（2025 年度秋学期：4.09）と効果が表れた。一方、「世界遺産で辿る日本の歴史」は 4.07（2025 年度秋学期：4.08）とほぼ横ばい、「韓流文化論」は 4.02（2025 年度秋学期：4.01）と微増で踏みとどまり、全科目が学内目標（4.00）をクリアしている。

【再収録を行った科目の評価】

満足度の改善の余地が見られる講義 6 科目の分析から、今後の改修に向けた具体的な課題が確認された。「資産運用実践論」や「和食文化論」における最新データの反映、「IT による知的生産術」における昨今の AI 動向への対応など、変化の激しい社会情勢や技術革新に合わせた教材のタイムリーなアップデートが求められている。また、「キャリアデザイン」で続くマイ

クノイズ、「防災論入門」の単調な朗読調や口頭説明への依存、「日本文学」のスライドの視認性など、デリバリー品質や資料構成の不備が学生の評価を押し下げる要因となっている。

③ 分析結果に基づく今後のアクションプラン

「和食文化論」（2026 年度秋学期より初学期履修推奨科目）と「資産運用実践論」、および 3 点台に低迷する「防災論入門」と「日本文学入門」の計 4 科目は、2026 年度秋学期に向けた再収録・部分改修を進めている。「IT による知的生産術」は、AI 時代に即した科目の維持・再編方針を検討する。マイクノイズが顕著な「キャリアデザイン」は、AI による音質の改善を検討する。

3. 外国語科目における分析結果

① 全体傾向

2026 年度春学期の満足度・おすすめ度において、基礎英語および中級英語は 3.8～3.9pts と多少の増減はあるものの概ね横ばい、上級は 3 科目とも 4.0 を上回る水準を維持した。実践的な英語表現や英会話の機会が、評価を支えていると考えられる。

自由記述では、CU ENGLISH の実践性、グループレッスン、丁寧なライティング添削が評価された。一方、音声品質、操作性、ユニット修了テストやグループレッスンの難易度などが課題として挙げられた。

② 新規・改修・その他実施した施策の評価等

基礎英語Ⅰでは、初期ガイダンスの段階的な展開や復習回の設置など、大幅なリニューアルを実施した。その結果、「授業の良かったと思う点」において「ガイダンス動画」の選択率が 32.90%(2025 年度春学期)から 41.14%に(＋8.23 ポイント)、「CU ENGLISH の操作性」が 23.45%(2025 年度春学期)から 29.30%に（＋5.85 ポイント)向上した。単位修得率も 2025 年度春学期比で上昇(＋5.6 ポイント)していることから、今回の改修により受講者の学習の進行や修了に一定の効果をもたらしたと考えられる。

ライティングワークショップを基礎・中級・上級別に計 3 回開催し、課題シートもそれぞれ改訂した。基礎英語Ⅰでは、「良かった点」におけるライティング課題の選択率が 17.59%から 25.92%へ上昇し、自由記述では添削や解説を評価する意見も増加した。

③ 分析結果に基づく今後のアクションプラン

基礎英語Ⅰについては、今回の改修効果と学生の学習状況を継続的に注視し、学生がスムーズに学習に入っていけるよう努める 。中級英語Ⅱのライティング課題については、学生の学習効果と採点の精度向上をめざし刷新する予定である。